

平成 27 年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	武雄市立山内中学校		
2 所在地	武雄市山内町大字三間坂甲 14209		
3 校長名	下平 博明		
4 学級数 児童生徒数	10 学級 251 人	5 実施学年 児童生徒数	1 年, 2 年, 3 年 251 人

6 取り組みのねらい

・自閉症の発達障害について知り、世の中には様々な特性をもつ人がいることを学ぶ。また、ありのままに受け止め、どのように対応できるかを考えさせる機会にし、いろいろな立場の人の視点から物事を見つめることの大切さを学ばせる。

7 取り組みの実際

(1) another planet 所長 納富 奈緒子氏による講演

武雄市にある心と発達の相談支援機関 another planet の所長で臨床発達心理士としてご活躍されています。

【演題】：「みんなちがってみんないい」



発達障害という、目にはなかなか見えにくい障害のことについて講演が行われた。自分たちの身の回りにもそういう障害を持つ人がいるということを言われた時は多くの生徒が驚いていた。また、アインシュタインやビルゲイツなどの著名な人物の中にも発達障害を持つ人がいることや、一芸に秀でた人物となる可能性を秘めていることなどを非常に分かりやすく説明された。一般にユニバーサルデザインというと、誰でもが使いやすくデザインされている道具といったイメージがあるが、それだけではなく「心のユニバーサルデザイン」という内容も分かりやすく説明されていた。これは、どんな人に対しても変わらずに接するという考えである。生徒も納得しながら話に耳を傾けることができていたように思う。

(2) 生徒の感想

- ・自分の周りにも発達障害を持つ人がいるかもしれないことに驚いた。
- ・どんな人でも変わらない態度で接することができる人になりたいと思った。
- ・「心のユニバーサルデザイン」という考え方を初めて知れたのでよかった。

8 取り組みの成果と課題

ユニバーサルデザインと言う言葉を知っている生徒は多かったが、心のユニバーサルデザインという考え方を知っていた生徒はほとんどいなかった。それを知ることで、周囲の人に対する接し方や声かけの仕方が少しずつ変わってきたように感じる。その一方で、まだまだ心無い言葉かけや行為が見られることもある。それらをなくしていくために、普段から生徒たちに言葉かけや人との接し方をさらに指導をしていく必要があると考える。